

段落	文	頁	行	原文	神山訳	寺沢訳
		162	9	Anmerkung 1.	註解 一.	注解一〔〈大きさの〉種類としての空間の大きさと数の大きさ〕
460	1		10 11 12 13 14 15	Gewöhnlich werden Raumgröße und die Zahlgröße, so als zwey Arten betrachtet, als ob die Raumgröße für sich so sehr bestimmte Größe als die Zahlgröße wäre; ihr Unterschied bestünde nur in den verschiedenen Bestimmungen der Continuität und Discretion; als Quantum aber stünden sie auf derselben Stufe.	〈空間の大きさ〉と〈数の大きさ〉は、通常、二つの〈種〉として考察される。そのさい、あたかも、〈空間の大きさ〉は、それだけで独立して、〈数の大きさ〉と同じくらい規定された〈大きさ〉であるかのように考察される。両者の区別の実質は、連続と分離という違った規定にのみあるかのようにだが、両者は、数量としては、同じ段階に立っているかのようにでもある。	空間の大きさと数の大きさととは、通常は、数の大きさが規定された大きさであるのと同じように、空間の大きさもそれだけ独立に、規定された大きさであるかのように考えて、〔大きさの〕二つの種類とみなされている。両者の区別は連続性と離散性ということになった規定のうちだけにだけあるのであって、定量としては両者は同一の段階上にある、とされている。
	2		15 16 17 18	Die Geometrie hat zwar im Allgemeinen in der Raumgröße die continuirliche, und die Arithmetik in der Zahlgröße die discrete Größe zum Gegenstande.	たしかに一般的には、幾何学は、〈空間の大きさ〉における連続した〈大きさ〉を対象とし、算術は、〈数の大きさ〉における分離した〈大きさ〉を対象としている。	一般的にはたしかに幾何学は空間の大きさのなかで連続的な大きさを対象にしており、算術は数の大きさのなかで離散的な大きさを対象にしている。
	3		18 19 20	Aber bey dieser Ungleichheit des Gegenstandes haben sie nicht eine gleiche Weise und Vollkommenheit der Begrenzung oder des Bestimmtheits.	しかし、幾何学と算術は、対象がこのような不等であるほかに、限界づけや〈規定されたあり方〉で同じあり方や同じ完全さを持つてはいない。	けれども、対象がこのようなちがっているのも、両者は限界づけないしは規定されていることについての等しい在り方と完全度をもってはいない。
	4		21 22 23	Die Wissenschaft betrachtet wesentlich die Bestimmtheiten dieser Gegenstände, insofern sie Quanta sind, und sich nach dieser Seite verhalten.	学問は、本質的に、これらの対象の規定態を考察する。その趣旨は、これらの対象が数量でありこの側面で振舞うというものである。	これらの対象が定量であり、〔定量という〕この側面に関してふるまうその限り、学は本質的にこれらの対象のもろもろの規定態を考察する。
	5		23 24 25	Die Weise der Begrenzung aber ist an beyden Gegenständen gleichfalls verschieden.	だが、同様に、限界づけのあり方は、二つの対象のもとでは違っている。	しかし限界づけの仕方は両方の対象に関してやはりことになっている。
	6		25 26 27	Die Raumgröße hat nur eine Begrenzung überhaupt; insofern sie als an sich bestimmtes Quantum betrachtet werden soll, hat sie die Zahl nöthig.	〈空間の大きさ〉は、ただ一般に限界づけを持っている。〈空間の大きさ〉は、それ自体で規定された数量として考察されるべきあるかぎり、〈数〉を必要とする。	空間の大きさは限界づけ一般をもつにすぎない。それが本来的に規定された定量とみなされるべきだとされる限りでは、それは数を必要とする。
	7		27 28 29 30 31	Auch betrachtet die Geometrie die Raumfiguren nicht nach einer an und für sich bestimmten Größe; sie <i>mißt</i> sie nicht; ist nicht Meßkunst; sondern <i>vergleicht</i> sie nur d. h. sie betrachtet sie nur als relative Quanta, nach einer	また、幾何学は、空間図形を、それ自体でもそれだけで独立しても規定された〈大きさ〉にしたがって考察するのではない。幾何学は、空間図形を【測る】ことはないし、測量術ではない。	幾何学はまた空間図形を絶対的に規定された大きさに関して考察するのではない。それは空間図形を計量しない。幾何学は計量術ではない。そうではなくて空間図形をただ比較するのであ

		32	Größebestimmung, die sie zu Andern haben.	幾何学は空間図形をただ【比較する】のである。すなわち、幾何学は、空間図形を、〈大きさの規定〉にしたがって相対的な数量としてのみ考察する。空間図形は、他の空間図形にとってある〈大きさの規定〉持つからである。	る、すなわち幾何学は空間図形をただ相対的定量として・つまりそれらが他の空間図形に対してもっている大きさの規定にしたがって考察するのである。
	8	32 33 1 2	Auch bey ihren Definitionen sind die Bestimmungen zum Theil von der <i>Gleichheit</i> der Seiten, Winkel, <i>der gleichen</i> Entfernung hergenommen.	また、空間図形の定義にあたっては、一部の規定は、辺や角の同索性や同等な距離から取ってくる。	空間図形を定義するにあたっては、〔そのために使われる〕諸規定は、部定的には、辺や角の等しいこと・等しい距離に由来するものである。
	9	2 3 4 5	So bedarf der Kreis, weil er allein auf der <i>Gleichheit</i> der Entfernung aller in ihm möglichen Punkte von einem Mittelpunkte beruht, zu seiner Bestimmung keiner Zahl.	だから、円は、中心と、みずからの内にあるあらゆる可能な点との距離の同等態にだけ基づいているのだから、みずからの規定のために〈数〉を必要としない。	こうして円は、円周上のあらゆる可能な点の中心点からの距離が等しいということだけに基いて〔定義されて〕いるのであるから、その規定のために数を必要としない。
	10	5 6 7	Diese auf Gleichheit oder Ungleichheit beruhenden Bestimmungen sind ächt geometrisch.	同等態ないしは不等態に基づくこうした規定は、純正に幾何学的である。	これらの等しいことまたは等しくないことに基いている諸規定は真に幾何学的である。
	11	7 8 9 10 11	Aber sie reichen nicht aus, und zu andern z. B. Dreyeck, Viereck, ist die Zahl erforderlich, die das An-sich-Bestimmtseyn, nicht das Bestimmtseyn durch Hülfe eines Andern, also nicht durch Vergleichung enthält.	しかし、こうした規定では十分ではなく、他の空間図形、たとえば三角形や四角形にとっては、〈数〉が必須である。この〈数〉は、〈それ自体で規定されたあり方〉を含んでいるが、〈他の規定されたあり方〉を助けとする——したがって比較によらない——〈規定されたあり方〉は含んでいない。	だがこれらの規定だけでたりるのではなく、他の図形・例えば三角形・四角形〔の定義〕には〔三とか四とかの〕数が必要であり、そして数は、本来的に規定された存在であり、他のものの助けをかり・したがって比較することによって規定された存在を含まないのである。
461	1	12 13	Die Zahl aber enthält diese Bestimmtheit an sich, weil das Eins ihr Princip ist.	しかし、〈一つ〉が〈数〉の原理なのだから、〈数〉は、こうした規定態をそれ自体で含む。	しかし数は、一がその原理であるから、この〔比較によって成立するような〕規定態を含まない <sup>1</sup> 。
	2	13 14 15 16 17 18 19	Die Raumgröße hat zwar an dem Punkte die dem Eins entsprechende Bestimmtheit; der Punkt aber wird, insofern er ausser sich kommt, ein Anderes wird, zur Linie; weil er wesentlich nur als Eins des Raumes ist, wird er in der Beziehung, zu einer Continuität, in der die Punktualität, das An-sich-Bestimmtseyn, das Eins, aufgehoben ist.	たしかに、〈空間の大きさ〉は、〈点〉のもとに、〈一つ〉に合致する規定態を持っている。しかし、〈点〉は、みずからの外に来て〈他のもの〉になるかぎり、〈線〉になるのである。〈点〉は、本質的に空間の〈一つ〉としてしかないから、〈点〉は、この関係において連続態になるのである。	空間の大きさは一に照応する規定態をたしかに点にもっている。しかし点には、自己の外に出てゆくと、他者に・つまり線になる。点は本質的にはただ空間の一としてのみあるから、点は〔他者への〕関係のなかで連続性になり、この連続性において点性は、つま

<sup>1</sup> 明白な誤訳だと思われる。

ヘーゲル『論理学』初版（1812年）460段落~461段落

					る。連続態では、点態や〈それ自体で規定されているあり方〉、〈一つ〉は、廃棄されている。	り本来的に規定された存在・すなわち一は揚棄されている。
	3	19 20 21 22 23 24 25	Insofern das An-sich-Bestimmtseyn im Ausser-sich-seyn sich erhalten soll, muß die Linie als eine Menge von Eins vorgestellt werden, und die <i>Grenze</i> die Bestimmung der <i>Vie-</i> <i>len</i> Eins in sich enthalten, d. h. die Größe der Linie -- eben so der andern Raum-Bestimmungen -- muß als Zahl genommen werden.	〈それ自体で規定されたあり方〉が 〈みずからの外にあること〉で維持されるべきであるかぎり、〈線〉は、多数の〈一つ〉として表象されざるをえない。そして、【限界】は、〈【多くの】〉〈一つ〉という規定をみずからの内に含まざるをえない。すなわち、〈線〉の—同様に他の〈空間規定〉の—〈大きさ〉は、〈数〉として受け取られざるをえない。	本来的に規定された存在が自己外存在において自己を保持すべきであるとされるその限りでは、線はもろもろの一の集合とみなされざるをえず、こうして限界は多くの一という規定を自己のうちに含まざるをえない。すなわち、線の—ならばにまた他の空間諸規定の—大きさは数としてとらえられざるをえないのである。	